

ば目標も達成できる。

町で英語教育の体制を整え保育園の子供に英語教育をしていくといった話の中で、アルバイトとして高校生を活用していくのもお互いにプラスになり、違う姿が見えてくるのでは、東濃高校はいい高校なのでは、という見方がされるのではと思う。

教育委員の皆さんからアイデアやご意見をいただきたい。

外国籍の生徒が 2 割いる。御嵩町に住んでいる子が入学したいという割合を増やさなければ定員割れを起こしてしまう。

日本人の生徒も増やすことも必要だと考え、東濃高校に進学を希望する子供に対し奨学金を町独自で出すということもできないかと思う。

また、青年・少年の主張スピーチで優秀な生徒を役場職員として採用するなどの枠を設けたり、工業団地においても東濃高校生枠を確保するなど仕組みを確立していくなど、継続して雇用できれば魅力も生じる。

生徒の親の視点は進学率であり、国公立や有名私立への進学実績をつくることも必要と感じる。

また、東濃中学時代から数多くの著名人を輩出しており、その OB 組織の強化充実を図り、東濃高校の応援団をつくるといいと思う。

先ほどの町長の話からも、これができる学校だと思う。

この地域では定員割れしていないのが東濃高校のみ。

しかし、160 人入学して 80 人強が卒業という時代もあった。今も 120 人入学して 100 人くらいが卒業、20 人も中退している現状である。

中学 3 年生の保護者と話をした際の感触として、いい先生は一生懸命やってくれるのは魅力だが、あと一歩踏み出せない、という感じだった。

もうひと押しだと思う。すぐには印象も変わらないと思うが、一人一人当たっていくことも必要ではないかを感じる。

自分が初めて赴任したのが東濃高校だった。地域の中には教育への熱意や信頼関係が今もあり、応援する風土が今もあると思う。

現在の東濃高校は新制高校であると思っている。外国籍の子を受け入れるなど県内でも新しい取り組みをしている先進校である。

当初の戸惑い、学校にも地域にもあったが、先生方の努力により生徒の登下校の姿勢や学校行事に秩序が生まれ教育力が発揮されていると思う。

地域は地域として、東濃高校に理解度を持っていくことが必要で、中身が変わってもなかなか伝わりにくいので上手に出していく。

外国籍の生徒の英語力を発揮するために、町は積極的に町の施設や場を提供し、外国語を身近に感じられるように取り組んでいかれるといい。

校内の英会話はどうなっているかということもあるが、東濃高校が教育を頑張っていることをもっと外部に発信するべき。

自分が東濃高校にいたときに可児高校ができるということで危機感を持っているという時代であった。その当時とは違う見方で見ていかなければいけないと思った。

岐阜県は外国人労働者の人数が全国 9 位であり、その半分が可児・美

細野委員

渡邊町長

田中委員

渡邊委員

平井委員

濃加茂に集中しているという状況の中で、可児市の教育委員の方と話した折、可児市としては東濃高校で外国籍の生徒を預かってもらっているというイメージだと聞いた。

御嵩だけでなく、広域で東濃高校の存続を、外国籍の子供たち通じて希望や技能を育てていくという意識が必要。

また、他の外国籍生徒が多いところ、例えば浜松や豊田、鈴鹿、亀山などの事例を参考にするものいいと思う。

少規模特例校を上之郷で実施しているが、東濃高校も提案されているような地域とのかかわりをもって、身近に感じてもらうことが大事と考える。

たくさんの貴重な意見をいただいた。何とか活性化をしていきたい。

悪い噂は長く、いい話は一瞬ですぎてしまう。テーマとしては難しいが、できるだけいいニュースをたくさん届けていきたい。

近年の産業構造が変わっているので、高卒でも十分戦力になると考えている企業も多い。この地域はものづくりが中心となっている。

虚業と実業など東濃高校生の将来に選択肢を多くしてやりたい。

外国籍の生徒には特に、母国語と日本語を同じレベルで扱えるくらいになるように伸ばしてやると高いレベルで通用すると思う。

東濃実業高校は、東実ブランドの維持、継続にすごいエネルギーを使っている。

1 つ目は森島参事の提案に対しては、教育委員会として全力で取り組み、東濃高校の存続を進めている姿勢を見せていきたい。東濃高校の先生と連携を取っていきたい。

2 つ目は、百聞は一見にしかず。東濃高校の文化祭や体育祭には実際に見に行っている。しっかりやっていることを実際に見に行かないといけない。

また見られることで子供も先生も研ぎ澄まされていく。

イメージと実態は違うことが多いが、これをどう伝えていくかが問題。通学路の道筋の方に東濃高校の生徒はそんなに悪い子ではないよと聞いていただけるようになるのが大事。

接点をいろいろ設けて、できることはどんどんやっていきたい。教育委員の皆さんも気付かれたことがあればどんどん教育委員会を通じて提案いただきたい。議論しやすい場は整いつつある。

ある意味特殊な、大切な高校である。新制の高校であることを見せていけたらいいと思う。

国際バカロレアに対する可能性はいかがか。

岐阜県立高校活性化計画では岐阜高校、大垣北高校に国際バカロレアの研究を提言されているが、東濃高校では難しいかと思う。

東濃高校の生徒のなかにも通訳の仕事を希望する子供もいますが、経済的な問題で進学が難しい状況もあるが、何とか方法が無いかといろいろ考えている。外国籍の子供たちの環境は厳しいが、町外の子供たちが名鉄を使って通学してくれていることをチャンスと捉え、御嵩で働く、

渡邊町長

教育長

渡邊町長

平井委員

東濃高校校長

御嵩に住むということにつながっていきけるといいと思う。

御嵩町、東濃高校が外国人生徒を受け入れてくれる事実ありがたい。
税金を納め、生活していける子にしていきたいと考えている。

なお、再編統合対象検討校という名前は無くなっている。

進路指導の上で中高の先生方の連携も必要だと思う。

次の機会もあると思うが、心配している気持ちがあり存続ありきで考えている。今後も検討していきたい。

時間となりましたので以上で第2回総合教育会議を終わります。

閉会 9:55

渡邊町長

教育参事